

3 月 20～21 日 青森 2 区 視察報告書

< 日程 >

月日	時間	場所	備考
3 月 20 日	午後	上十三地区 個別農家	意見交換
3 月 21 日	移動	防波堤沿い	移動中視察
	10:00	百石漁港視察	百石町漁協対応（組合長他役員）
	移動	三沢市ふれあい駐車場	展望台から海岸線を視察
	移動	小川原湖高瀬川河口	移動中視察
	13:00	三沢漁港視察	三沢市漁協対応（組合長、参事）
	14:00	三沢市役所	震災・鳥インフルエンザ（市長他）

< 詳細 >

○ 各農家からの意見、要望

- ・ 燃料（ガソリン、重油、灯油）が手に入らない
- ・ 農協の組合員なのに、農協の SS に行っても燃料を購入できなかった
- ・ 震災で米がほしいと言われたが、精米のための燃料が不足し提供できなかった
- ・ スーパーなどの小売店では、乾麺等の非常食が売り切れて初めて米が売れ始めた
- ・ もっと米の消費拡大を真剣にやってほしい
- ・ 次期田植えに向けて準備を始めている
- ・ 戸別所得補償モデル対策事業で助かったが、今年は生産調整を緩和して食料を確保したほうがいいのではないか
- ・ 甚大な被災地は米の産地なので非常に残念だが、東北地方の農業再生のために代わりに頑張りたい
- ・ 津波による塩害の影響がどの程度出るのか、情報がほしい（米作、畑作とも）
- ・ これからの農業をどうするのか、どうやって東北地方の農業を再建するのか、具体的な政策、ビジョンを明確に打ち出してほしい
- ・ 原乳の搾乳廃棄をさせないでほしい
- ・ 飼料が入ってこない、早急に対応してほしい

○ 防波堤沿いの視察

- ・ 工業団地では、津波により PC、制御盤等が損壊し、稼働できない施設もある
- ・ 人的被害はなかったが、駐車場の車が浸水被害にあった
- ・ 防波堤の調査が始まっていた

○ 百石漁港視察（木村組合長、平野監事他役員 8 名）

- ・ 被害額予想 1 億 8, 0 0 0 万円、漁具等の被害を含めると倍になると思われる（年間水揚げ高が約 2 億円なので、2 年分の被害があったといえる）
- ・ 国の支援策、県の支援策、町の支援策と具体的な自立支援策を教えてほしい（どこで何をしてくれるのか判らないと、どうお願いしていいのか判らない）
- ・ 災害復旧事業の拡充をして、早く漁港復旧をお願いしたい
- ・ 船の被害だけでなく、漁具の被害も大きかったので、漁具に対する支援策を打ち出してほしい
- ・ 今回の震災は想定外の事象だったかもしれないが、国も県も対応が規定通りで柔軟性が感じられない、非常時だからこそもっと現場の危機感を感じ対応策を打ち出してほしい
- ・ 船の確保ができない、中古船ですら手に入らない
- ・ 船を修理したくても大工がいらない、鉄工所がない
- ・ 沈没船に座礁するなどの二次災害の恐れが高いため、ダイバーの派遣、クレーン車の派遣を早急にしてほしい
- ・ 地元の自衛隊が他県の応援に行ってしまうのが残念、地元第一ではないのか
- ・ 百石漁港は荷捌き施設建設が決まっているが、計画通り建設できるのか保証ができない。繰り延べで事業延長は認められているが、期間内に完成できるか判らない。施設ができて、船がなければ意味がない。まずは、漁業者の生活再建のひとつとして漁船の確保をし、それから施設に取り掛かりたい。事業を中断した場合の補助金の扱いがどうなるのか知りたい
- ・ 目の前に生活者がいるのに売ることができないため、法改正をしてほしい
- ・ 自民党の視察では大人数で 1 0 分程度聞いただけですぐいなくなったが、民主党は国会議員が単独で来て、しっかり見て話を聞いてくれた。後は支援を期待すると言われた。

○ 海岸線、小川原湖河口付近（おいらせ町～三沢市）

- ・ 陸地 5 0 0 m くらいまで波が襲った形跡があった
- ・ 波に襲われた住宅、倉庫（全壊・半壊）が連なっていた
- ・ 河口が大きくえぐられていた
- ・ 津波の力が河口に集中し、逆流、防砂林の松がなぎ倒された形跡が生々しかった
- ・ 防波堤の土台が崩れ、露出していた
- ・ 小川原湖に流木が入ってきたという情報から、河口付近に行ってみたが確認できなかった
- ・ 昨夏着工したばかりの生活排水（浄化槽）施設が水没、復旧は困難

(補助事業だが、どの府省事業かは確認中)

○ 三沢漁港視察（門下組合長、山崎参事他 1 名対応）

- ・ 早ければ 21～22 日にダイバー、クレーン船が入ってきて、沈没船の調査をしてくれることになっている
- ・ 八戸地区に比べて国、県の手当が小さい、遅い。三沢市が独自に支援している状態
- ・ 災害救助法に三沢市が指定されていない（おいらせ町や八戸市は入っている）
- ・ ほっき祭りの準備のため、ほとんどの漁業者が漁市場に集まっていたので、地震が来てすぐに船を沖に出したり、高台に避難することができた。これが平常時であれば、人的被害もどれだけあったか想像できない（災救法の適用を求める）
- ・ 引き波に港内の船が多く引っ張られ沈没した
- ・ 120k1 の重油備蓄タンクが横倒れしている。重油を抜いて、タンクを解体するか、修理するか専門業者と相談したいが、重油の引き取り手が見つからない（イカの漁期 6 月に間に合わせたい）
- ・ 漁船が水揚げできるように漁市場（ドッグ、製氷施設）を早く復興したい
- ・ 漁船もない、漁具もない、網も流失した。その支援をしてほしい
- ・ 船、イカ漁の機械、網が手に入らない。網を作る職人も工場も少なくなっている。
- ・ 生活資金がない
- ・ 再建のためにどうしたらいいのか、仮にお金があっても造船所がない、電話、ファックスもつながらない、PC も使えなくなった、漁市場も事務所も機能していない
- ・ 呆然としている中で、警察も消防も港の安全確保に来てくれなかった
- ・ 漁船保険の調査等は終わりに向かっている
- ・ 漁港の片づけをするにも、漁具が砂に埋もれているため、重機で上げた砂の中から無事な漁具を選定するために時間がかかった
- ・ 米軍が延 300 名、重機を出してくれたので助けられた
- ・ すぐに自由に使える支援金が必要
- ・ 漁協事務所、漁市場、浮棧橋、製氷施設、漁民研修センターと漁港一帯の復興をしてほしい
- ・ 助かった漁業者が漁業を続けていけるように、後継者の人たちがやる気を失わないように、何番目でもいいので、三沢漁港の復興対策を必ず入れてほしい

○ 三沢市役所（種市市長、副市長他 2 名担当課長対応）

- ・ 要望書を受け取り（別添）
- ・ 大小合わせて半数以上の漁船が使えない、網がないという状態なので、融資補助、生活資金の支援を早急にお願いしたい
- ・ 製氷施設は防衛省の予算で建て築 2 年ほどの新しい施設だった。PC が波をかぶって使えなくなった。浮棧橋（漁港に必須）もどこに流失したか判らない。漁協事務所の補助も必要
- ・ 養豚、養鶏農家の飼料が不足し、養鶏は特に次々死んでいる。早く飼料を支給してほしい

- ・ ガソリン、灯油、プロパン、重油を早急に支給してほしい
- ・ 災害救助法に適用されない（指定基準に納得いかない）災害救助法と同等の適用をお願いしたい
- ・ 市の被害額は約 14 億円。その他含めて合計で約 20 億円。これには船など未了のものは含まれていない。災害対策交付金を出してほしい
- ・ 家屋被害のあった世帯のうち、8 世帯は市営住宅、教員住宅に入居できた
- ・ 全壊のため、家を壊す際の費用は、市と業者で負担している
- ・ 3 月 10 日に米軍基地内で発見されたハヤブサ死骸から高病原性鳥インフルエンザが検出されたが、当初より発生するものとして当日夜のうちに各農家に指示を出していた。現状、レベル 2 から 3 に上がっている。震災対応と並行して（一緒に）鳥インフルエンザの対応をしている。農家の混乱、不安などは出ていない。
- ・ 飼料を早急に手当てしてほしい

○ その他

- ・ 3 月 20 日、早朝 4 時に十和田市内ガソリンスタンドを回ったが、深夜から並んでいると思われる車両の列が給油の順番待ちをしていた（その時点で 100 台程度）
- ・ 同日、6 時に同一地区を回ったが、200 台を超える車両が列になっていた（該当 SS は 300 台を制限としていた）
- ・ ガソリンの配送に不公平感を持っていた（どこの SS が開店するのか、何台給油できるのか、何 1 給油できるのかの情報が行き渡っていない）
- ・ SS で早朝に給油整理券を受け取り、昼ごろの開店に合わせて再度 SS に向かうという秘書吉田の実体験（台数制限と量制限）
- ・ SS によっては、整理券を受け取っても列から離れると無効というところもあった
- ・ 秩序を乱すことなく、混乱も少なく、整然と並んでいた
- ・ スーパーでは、牛乳、乾麺、納豆の売り切れが目立った。それ以外の食料品は、ある程度陳列されていた
- ・ 郊外の大型 SC には、通常の 1/4～1/5 の来客数に見受けられた。ガソリン不足から、近くのスーパーに買い出しに出ているという生活者の話があった
- ・ 市役所職員は、自転車での通勤に切り替えている
- ・ 遠距離通勤の方達は、乗合で通勤している
- ・ ガソリン以外の生活は、平常に戻りつつある

<要望取りまとめ>

1. 農業関係

- ・ 燃料、飼料の配送を早期にお願いしたい。
- ・ 被災のあった農業地帯の農業再建のビジョン、政策を早期に打ち出してほしい
- ・ 食料確保のためにも、生産調整の緩和が必要
(特に東北地方の作れる農家に作ってもらいたい)
- ・ 米の消費拡大を図ってほしい
- ・ 現状では原乳を欲しいという人に農家が売ることができないため、非常時には非常時の法対応としてほしい(食品衛生法等)

2. 漁業関係

- ・ 大被害を受けた地域の復興はもちろんだが、比して小額で再建できる漁港に支援、災害復旧事業を拡充し、できるところから漁業再建をしていく対策を打ち出してほしい
- ・ 国、県、市町村のそれぞれの支援策を明確に判るように周知してほしい
- ・ すぐに自由に使える支援金を出してほしい
- ・ 生活資金の援助をお願いしたい
- ・ 漁業者のために漁船の確保、漁具の確保を早急をお願いしたい
- ・ 二次災害を防ぐため、沈没船等の除去の対応をすぐをお願いしたい
- ・ 非常時に自衛隊派遣がされない現状を変えてほしい
- ・ 先の見通しができるよう、漁港復旧に力を尽くしてほしい

3. 三沢市

- ・ 人口に対する全壊等の割合という規定を変えて、災害救助法に適用してほしい